

福山大学 グリーンサイエンス研究センター 令和元(2019)年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的

領域： 使命・目的、教育目的

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中長期計画	福山大学グリーンサイエンス研究センターの理念・目的に関して、センター規程には以下の様に記載されており、これを本センターの中長期的な使命・目的とする。 第1条 センターは、福山大学における先端的な学術研究基盤を強化し福山大学研究推進委員会の目的に沿って、生命工学部、薬学部を中心とするライフサイエンス分野の教育研究を推進し、地域の研究機関、産業界、自治体及び関係諸団体等広く社会と連携して活力ある地域づくりに貢献する。この理念・目的に則り、・研究プロジェクトの推進、・研究教育環境の改善、・研究教育を通じた地域社会への貢献を進める。
	2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	本センターの使命・目的の意味・内容は、センター規程に具体的かつ明確に記載されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	使命・目的はセンター規程に明確に記載されている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター規定
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	センター規程にライフサイエンス分野の教育研究を推進すると記載されており、個性・特色を明示している。
年度目標	現状を維持
年度報告	センター規程にライフサイエンス分野の教育研究を推進すると記載されており、個性・特色を明示している。令和2年度からセンターに2つの部門を置き、更なる個性・特色の明確化を図る。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター規定
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	本研究センターの使命・目的は、社会や時代の変化・要請に基づき、研究を通じて健康や環境、生物多様性などに貢献する事である。背景の変化などにより必要が生じれば見直す。
年度目標	現状を維持

年度報告	センター運営委員会などで、社会の要請や背景の変化について検討した。社会の要請や背景の変化に対応し、文科省私立大学研究ブランディング事業を推進した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和元年度グリーンサイエンス研究センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	次年度に、文科省ブランディング研究は外部評価を受ける。

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	現状では、大学のブランディング研究や文科省私立大学研究ブランディング事業の研究プロジェクトを通して、センターの使命・目標に教職員の理解と支持が得られている。
年度目標	研究の推進と研究成果の公表などを通じて、更に理解と支持が得られるように努める。
年度報告	全学をあげて『瀬戸内の里山里海学』を大学の研究プロジェクトとして推進した。大学院FD研修などと兼ねてグリーンサイエンスセミナーを2回開催し、多くの聴衆を集めた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学院FD研修を兼ねたグリーンサイエンスセミナー報告 ②文部科学省私立大学研究ブランディング事業研究成果報告会(新型コロナのため次年度に延期)
次年度の課題と改善の方策	文科省ブランディング研究は2019年度で終了するので、引き続き教職員の理解と支持を得るよう努める。
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	センターの使命・目的は、研究成果やグリーンサイエンスセミナー、ホームページを通じて学内外へ公表、周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	研究成果報告会は次年度に延期になったが、センターの使命・目的はグリーンサイエンスセミナーやホームページなどを通じて学内外に公表、周知した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センターホームページなど ②研究成果報告会(次年度開催予定)
次年度の課題と改善の方策	研究成果報告書の刊行は延期され、次年度に刊行予定。
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	研究を通じて環境や健康に貢献するという本センターの使命・目的には普遍性があり、中長期計画に反映している。
年度目標	本センターの活動が、使命・目的に合致したものであるか定期的に検証し、反映に努める。
年度報告	センター運営委員会などで検討し、中長期計画に反映させた。次年度からセンターに2つの部門を置くことを定めた。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①令和元年度グリーンサイエンス研究センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	研究センターは3ポリシーを持たないので、「大学のポリシーを反映しているか」と読み替えると、主に大学のディプロマポリシーを本センターでの研究活動に反映させている。
年度目標	主に研究活動(卒論や修論博論など)を通じて3ポリシーに反映させるように努める。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学便覧2019に掲載された福山大学の3ポリシー
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	本センターの組織構成は、センター規則に記載されているセンターの使命・目的と整合性が取れている。本センターは本学のブランディング研究のうち生命工学部と薬学部領域の研究をカバーしており、この中から優先課題研究、特別研究の研究組織を構成している。
年度目標	現状を維持
年度報告	これまで本センターには兼任教員の規程がなかったので、センターの研究を担う教員を兼任教員にすべくセンター規程の改正を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和元年度グリーンサイエンス研究センター運営委員会議事録 ②福山大学第12回評議会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

基準2. 学生**領域： 学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中長期計画	
2019年度	グリーンサイエンス研究センター
中点検項目	2-1. 学生の受け入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	
年度目標	

年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	
年度目標	

年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	センターには専任教員、配属学生がいないので、ハラスメント対応は学部学科の発生防止対応に準拠している。センター独自のハラスメント発生防止策が必要であれば取り組む。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。本研究センターに関するハラスメントは発生しなかった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①ハラスメント対応委員会の令和元年度活動報告(第12回評議会配布資料)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	センター内の実験室やセンターに設置されている装置設備ごとに管理者を定め、良好な学修環境を保つよう整備と運営・管理を行っている。全体の運営はセンター運営委員会が担当し、センター長が全体を統括する。
年度目標	現状を維持
年度報告	センター全体にわたり、研究環境の整備と適切な管理・運営を行った。センターの施設・設備は適切に維持管理された。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和元年度センター予算要求書 ②センター施設設備の保守点検記録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	本センターの実験施設・設備は、生命工学部・薬学部の学生実験や卒業研究等に活用されている。ICT教室や図書館はない。

年度目標	現状を維持
年度報告	本センターの施設設備を、学生実験や卒論、修論などに利用した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①センター内の設備施設の使用記録簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	バリアフリーについては特別な取り組みはしていない。研究センターなので、各階の空きスペースにソファなどを設置し、アメニティースペースを確保している。
年度目標	バリアフリー化の必要性が生じれば、その時は真摯に取り組んでいきたい。
年度報告	特別なバリアフリー化は行っていない。アメニティースペースにはソファを置いている。
達成度	A
改善課題	現状でバリアフリー化の要求は無いが、必要になったときには検討したい。
根拠資料	①令和元年度グリーンサイエンス研究センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	研究センターなので授業は行わない。現状では施設・設備は適切に管理され、機能的に利用されている。
年度目標	2019年度は研究室が1つ増えるので、それに合わせて適切に施設・設備を管理したい。
年度報告	現状でセンターには生物工の1研究室、海洋の1研究室、および薬学の2研究室があり、適切な施設・設備上の管理をした。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和元年度グリーンサイエンス研究センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	消防法や大学の方針に則り、火災報知器の検査や消火器の交換などを行っている。1階管理室にはAEDを設置している。
年度目標	現状を維持 AEDの電池切れなどないよう留意する。
年度報告	学部とともに大学の「安全衛生委員会」「福山大学における学生の安全衛生委員会」と連携し、安全衛生マニュアルならびに学生の安全衛生規程に従って、安全・防災に取り組んだ。
達成度	S
改善課題	引き続き、防災・防火の観点から整備点検を行いたい。
根拠資料	①センター内の火災報知器点検記録・消火器交換記録など

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	① 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	学内各部局に劇物・危険物の管理に関する担当委員を置き、安全管理および管理システムの整備を行っている。また、全学的には「福山大学における学生の安全衛生委員会」および教員に対する「安全衛生委員会」に学部から委員を出して、全学的な取り込みに対応している。
年度目標	今後化学薬品管理システムが導入されれば、積極的に運用していきたい。
年度報告	大学の安全衛生委員会の「化学物質管理規定制定とリスクアセスメントマニュアル」に従って、試薬の使用・保管場所を整理した。
達成度	A
改善課題	引き続き、整備に努めたい。
根拠資料	①各研究室の劇物・危険物管理記録簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	センター独自の取り組みは無いが、全学や学部学科の安全管理教育、災害時避難マニュアルに則って訓練等を行っている。全学の防災訓練に参加している。
年度目標	全学の安全管理マニュアルが整備されたので、最大限に活用していきたい。
年度報告	大学の「自然災害対応マニュアル」および「福山大学危機管理基本マニュアル」をもとに、学部に準拠して災害時避難訓練(2019年11月22日)を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①「自然災害対応マニュアル」 ②「福山大学危機管理基本マニュアル」
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

基準3. 教育課程**領域： 卒業認定、教育課程、学修成果**

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中長期計画	
2019年度	グリーンサイエンス研究センター
中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ループリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	

達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	
年度目標	

年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

基準4. 教員・職員**領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

中長期計画	グリーンサイエンス研究センターは専任教職員を持たないので、研究支援について記載する。 ・福山大学グリーンサイエンス研究センター規程第2条(目的)に則り、本学における先端的な学術研究基盤を強化し、研究推進委員会の目的に沿って、生命工学部、薬学部を中心とするライフサイエンス分野の教育研究を推進し、地域の研究機関、産業界、自治体及び関係諸団体等広く社会と連携して活力ある地域づくりに貢献すること、技術振興に資すること、を中長期計画とする。 ・具体的には大学のブランディング研究や特別研究を推進する。
-------	---

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	センター規程によりセンター長は学長が指名し、評議会の議を経て学長が任命する。副センター長は評議会の議を経て学長が任命する。また全学研究推進委員会の目的に沿ってセンター長がリーダーシップを取っている。
年度目標	現状を維持する
年度報告	学長のリーダーシップの下センター運営が行われ、所長も適切なリーダーシップを発揮した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター規程
次年度の課題と改善の方策	次年度は2部門が新設され、部門長がマネージメントを行う。
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	現状ではセンター長と副センター長が協議して、権限・役割を分担している。事務系統は工学部・生命工学部事務室が担当し密接に連携している。
年度目標	現状を維持するとともに、必要が有ればマネジメントを見直す。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター規程
次年度の課題と改善の方策	次年度は2部門が設置されるので、部門長の責任を明確化する。
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	教職員の配置と役割は福山大学グリーンサイエンス研究センター規定に明記されており、教学マネージメントの機能性を高めている。

年度目標	現状を維持
年度報告	主にセンター長と副センター長、事務室が協働して適切にマネージメントした。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンス研究センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	次年度は2部門が設置されるので、各マネージメントの機能性を高める。

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	

根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	本センターの職員は、定期的に全学や学外のSD研修などを受講して、資質・能力の向上と教職協働への取り組みを実践している。
年度目標	現状を維持
年度報告	学部に準拠し、全学的なSD研修を受けて資質・能力向上に取り組んだ。SDの一環として、グリーンサイエンスセミナーを開催した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンスセミナー開催案内・報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のためにICTの活用を推進していますか。
現状説明	教職員は、大学運営の効率改善や情報共有のため、Office365やキャビネットKarinなどのICTを活用している。
年度目標	引き続き、Office365やキャビネットKarinを用いて教職員のICT活用を推進する。
年度報告	センター運営委員会議事録をKarinに収載し、研究成果報告書をHP上に公開した。研究成果報告書をセンターHPに掲載した。
達成度	A
改善課題	大学HPの体制が整ったら、更にICTを活用したい。
根拠資料	①キャビネット Karin ②グリーンサイエンス研究センターホームページ ③グリーンサイエンス研究センター研究成果報告書
次年度の課題と改善の方策	大学HPの体制が整ったら、更にICTを活用したい。

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	研究に専念する十分な時間の確保は難しい。センターの施設設備の整備等の研究環境は、可能な限り適切に管理している。
年度目標	限りある時間の中、出来るだけ効率的に研究環境の整備に取り組む。
年度報告	センター長がリーダーシップを発揮し、センターの施設設備の整備等、研究環境を適切に管理した。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①センターの施設設備等の維持管理記録 ②施設設備の使用記録簿
次年度の課題と改善の方策	未来創造館新設により装置等の移動が予定されている。
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	センター独自のものは無いが、「研究ガイドブック」等を通じて全学的な研究倫理の確立と運用に努めている。
年度目標	引き続き研究倫理の確立と厳正な運用に努める。
年度報告	全学・学部の体制に準拠し、研究倫理の確立に向けて現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究ガイドブック ②研究倫理委員会議事録等
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	現在は、文科省の私立大学研究ブランディング事業の経費・資源を大学のブランディング研究「瀬戸内の里山里海学」ほかに配分し、適正に運用している。
年度目標	文科省事業は2019年度限りであるが、引き続き適正な運用に努める。
年度報告	大学の支援により、研究活動への資源の配分や運用は適切に行われた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和元年度グリーンサイエンス研究センター予算要求書
次年度の課題と改善の方策	文科省事業は2019年度限りで終了となる。外部資金の獲得が必要。
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	全学的に「研究ガイドブック」等が整備されており、大学の方針に従って整備、周知に努めている。
年度目標	引き続き全学的な方針に基づいて、公的研究費の運営・管理の周知と整備に努める。
年度報告	大学の方針により、研究倫理のeラーニングを受講した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①研究ガイドブックほか ②研究倫理eラーニング受講証
次年度の課題と改善の方策	

基準6. 内部質保証**領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンサイエンス研究センターには自己点検研評価委員会が設置されており(運営委員会が兼ねる)、センターの組織体制や運営について自己点検を行う。 ・中長期計画としては、センター組織を見直し、兼任教員の配置などによりさらに研究推進を図る。 ・文部科学省私立大学研究プランディング事業に採択されたテーマについて適宜外部評価を受け、研究内容や進展具合に関する外部からの意見を聞いてPDCAサイクルを回す。 ・そのほか、上部の研究推進委員会などでも研究の検証を行い、改革改善に努める。

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	グリーンサイエンス研究センター自己点検評価委員会を設置し(運営委員会と兼任)、委員長、副委員長を置いて責任体制を確立している。
年度目標	内部評価の他、文科省プロジェクトについても外部評価を受けなければならないので、上部の研究推進委員会等と連携して外部評価の組織を整備する。
年度報告	センター運営委員会(兼自己点検評価委員会)にて自己点検を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和元年度自己点検報告書 ②センター運営委員会議事録 ③福山大学グリーンサイエンス研究センター自己点検評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	文科省私立大学研究プランディング事業の外部評価は次年度に延期になった。

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	センター自己点検評価委員会が取り纏めた自己点検評価書を、大学が取り纏めて大学HPに掲載しており、これを通じて該当部署の教職員が共有している。
年度目標	現状を維持。 研究については、研究成果報告などを通じて自律的に自己点検する。
年度報告	センター運営委員会(兼自己点検評価委員会)にて自己点検を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和元年度自己点検報告書 ②センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	文科省私立大学研究プランディング事業の外部評価は次年度に延期になった。
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	IR等を活用した調査・データ収集・分析、結果の改善への活用はあまり進んでいない。

年度目標	IRについては見識が浅いので、よく勉強して実施可能なところから活用していきたい。
年度報告	IRについては、センター運営委員会議事録をキャビネットKarinに収載した。データの分析までは行っていない。
達成度	A
改善課題	データの収集と分析について検討したい。
根拠資料	①キャビネット Karin
次年度の課題と改善の方策	データの収集と分析について検討したい。

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	内部質保証のために、本センターでも自己点検評価を行い、計画書・報告書を作成してセンター運営委員会で検討している。研究推進・支援では、研究成果報告会や外部評価を受けて研究内容について検証し、その結果を改善に繋げるとともに、その機能性について検証している。
年度目標	研究成果報告会、セミナー、研究成果調査自体がPDCAサイクルの仕組みそのものであり、これらを活用して改善に繋げたい。
年度報告	今年度中に行う予定であった研究成果報告会と研究成果報告書の刊行は、新型コロナウィルスのため次年度に延期になった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究成果報告会レジュメと研究成果報告書(予定)
次年度の課題と改善の方策	年度を越えたが、研究成果報告会を開催し、研究成果報告書を刊行する。
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	「福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン」、「学術研究における倫理審査について」、「男女共同参画宣言」、「研究費の取り扱いについて」、「個人情報管理基本方針」が制定されており、教員に周知され、意識の徹底が図られている。また、大学で起こりやすい種々のハラスメント、研究の不正、研究経費の不正等に関する全学レベルのFD研修会に参加することで、コンプライアンス意識を徹底している。また、倫理規定を含む研究活動は、学術倫理審査委員会の許可を得たうえで実施している。学部教員全員が研究倫理に関するeラーニングを受講することによって、コンプライアンス意識について検証を受けた。学部教員全員が生命工学部で開催した研究倫理教育を受講した。これらの成果の具体的な検証は行っていないが、2019年度に関しては不正等の発生はない。
年度目標	現状を維持し、教職員のコンプライアンスの確立に努める。
年度報告	現状を維持した。研究不正等は無かった。研究倫理eラーニング。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①FD研修会参加者名簿 ②学術倫理審査委員会議事録 ③研究倫理eラーニング受講証

次年度の課題と改善の方策	
2019年度	グリーンサイエンス研究センター
基準7. 福山大学ブランディング戦略	
領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）	
2019年度	グリーンサイエンス研究センター
中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・本研究センターでは、大学のブランディング研究「瀬戸内の里山・里海学」に則り、大学の方針に基づき優先課題研究と特別研究を推進する。 ・文部科学省私立大学研究ブランディング事業に採択された「瀬戸内島嶼部における生態系の解明と産業利用・教育(略称)」について、リーダーシップを取って強力に推進する。 ・同研究プロジェクトは5年間の継続であったが、文科省の通達により3年で終了することが決まったので、それ以降の外部予算獲得を目指してブランディング研究に取り組む。
2019年度	グリーンサイエンス研究センター
中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	現在の福山大学ブランディング研究は本センターを中心として始まったものであり、これを通じて大学のブランディング戦略に貢献する。当然関連する部局のメンバーには周知されている。
年度目標	福山大学ブランディング研究の中心の1つは本センターなので、当該部局だけでなく全学的に学生及び教職員への周知を引き続き進める。
年度報告	グリーンサイエンスセミナーなどを通じて周知を進めた。研究成果報告会と報告書は次年度に延期になった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①グリーンサイエンスセミナーの開催案内・報告書
次年度の課題と改善の方策	文科省の私立大学研究ブランディング事業は今年度限りなので、次年度以降の戦略が必要
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取組んでいますか。
現状説明	現在世界的な関心事は持続可能性であり、本センターは国連が定めた持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を通じて本学のブランディング確立に貢献すべく努力している。
年度目標	国連のSDGsは世界的な開発ルール・指標であり、本センターは世界的に広がりを見せるSDGsへの取り組みを前面にアピールして他との区別化を図りたい。
年度報告	ブランディング研究「里山・里海学」を推進した。この取り組みは、SDGsの14:海の豊かさを守る、15:陸の豊かさを守る、に該当する。養殖技術の開発は、9:産業と技術革新の基盤形成に貢献する、に該当する。特別研究は、3:全ての人に健康と福祉を、に該当する。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学HPの文部科学省私立大学研究ブランディング事業の進捗状況
次年度の課題と改善の方策	文科省の私立大学研究ブランディング事業は今年度限りなので、次年度以降の戦略が必要

点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	持続可能性や生物多様性、生態系サービスや環境保全など、世界的に取り組むべき課題を身近な瀬戸内を舞台に展開する研究プロジェクトを推進しており、研究プロジェクトを通じて地域から国際社会に繋がる人材の育成に努める。
年度目標	現在の研究プロジェクトを推進し、その研究成果を地域に発信することにより、地域から国際社会に繋がる人材育成を図る。社会と繋がった研究を通じた人材の育成に努める。4月に韓国との国際シンポジウムを開催する予定である。
年度報告	文部科学省私立大学研究ブランディング事業のブランディング研究「里山里海学」を推進した。4月に韓国・木浦大学校との国際シンポジウムを開催した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①文部科学省私立大学研究ブランディング事業の進捗状況を大学HPに掲載
次年度の課題と改善の方策	文科省の私立大学研究ブランディング事業は今年度限りなので、次年度以降の戦略が必要
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのように取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	上の③の現状説明で記載したような取り組みを行っている。その成果は、研究成果発表会、研究成果報告書などで検証している。
年度目標	大学ブランディング研究で得られた成果を積極的に地域に向けて発信し、その反応を検証する。
年度報告	文部科学省私立大学研究ブランディング事業のブランディング研究「里山里海学」を推進した。特に有瀧教授の取り組みは、大学の地域貢献活動として各方面で大きく取り上げられた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学HPの文部科学省私立大学研究ブランディング事業の進捗状況
次年度の課題と改善の方策	文科省の私立大学研究ブランディング事業は今年度限りなので、次年度以降の戦略が必要
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	上の③の現状説明で記載したような取り組みを行っている。社会と繋がる研究(卒業研究など)を通じて地域の中核となる人材を育成し、地域に輩出していけるよう努力している
年度目標	行政や民間セクションなど地域と共同で研究に取り組むことにより、人材育成をしていくたい。
年度報告	多くの学生が、卒業研究や修士論文研究の課題として本研究センターの研究プロジェクトに取り組み、これを通じて人材育成に貢献した。その成果は卒業生の進路などで検証した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和元年度 生物工学科・海洋生物科学科 卒業研究発表会プログラム

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	① 福山大学プランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	「瀬戸内の生態系解明と資源利用・教育」研究プロジェクトでは、地域の行政(福山市や笠岡市、尾道市など)や地域企業(日本総合科学他)と連携した取り組みを進めており、外部評価などで検証を行う。
年度目標	現状を維持する
年度報告	文部科学省私立大学研究プランディング事業のプランディング研究「里山里海学」を推進した。特に有瀧教授の取り組みは、大学の地域貢献活動として各方面で大きく取り上げられた。
達成度	A
改善課題	本センターが進めるプランディング戦略研究では、学術的な研究成果は着実に上がっているが、地元の行政、産業界、教育界、市民に対するアクセスが十分でない点がある。
根拠資料	①大学HPの文部科学省私立大学研究プランディング事業の進捗状況
次年度の課題と改善の方策	備後とのより密な連携を模索する。
点検項目	⑦ 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	本センターは研究センターであるので、社会に繋がる卒業研究などを通じて全人格的な教育を取り組んでいる。その成果は卒業研究発表会や卒業論文などで検証する。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	生命工学部、工学部の多くの学生が、卒業研究や修士論文研究の課題として本研究センターの研究プロジェクトに取り組み、これを通じて人材育成に貢献した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和元年度 生物工学科・海洋生物科学科 卒業研究発表会プログラム
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

グリーンサイエンス研究センター

中点検項目	7-2. 福山大学プランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	全学のプロジェクト研究に則り、「瀬戸内の生態系解明と産業利用・教育(略称)」や薬学部の特別研究を主導している。
年度目標	現在の研究プロジェクトを推進することにより、福山大学のプランディング推進に貢献すべく努力する。更に今後は里山学研究にも注力したい。
年度報告	生命工学部と工学部連携で、「瀬戸内の里山里海学」研究プロジェクトに多面的に取り組んだ。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学HPの文部科学省私立大学研究プランディング事業の進捗状況

次年度の課題と改善の方策	文科省プロジェクトは令和元年度で終了するので、その後が課題である。
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	内部資金については、もともと外部資金である文部科学省の私立大学研究ブランディング事業経費を原資に得ている。また研究メンバーが科研費などの外部資金を獲得している。
年度目標	文科省プロジェクトについては2019年度限りで廃止されるので、それに代わる外部資金の獲得を目指す。
年度報告	今年度は、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業の学部資金で運営した。
達成度	S
改善課題	令和2年度からは文科省予算がなくなり内部資金に切り替わるが、科研費や他の外部資金の獲得が必要である。
根拠資料	①文部科学省私立大学研究ブランディング事業採択書 ②科学研究費採択書 ほか
次年度の課題と改善の方策	令和2年度からは薬学部の研究プロジェクトに対する学内資金がなくなる。
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	毎年公開の研究成果報告会を開催しており、ホームページ上に研究成果報告書を公表している。また研究関連情報についてはホームページやプレスリリースなどを通じて社会に発表している。
年度目標	文科省プロジェクトでは研究成果の広報が求められており、より効果的・効率的な広報手段を確立する。2019年度には韓国・木浦大学との国際シンポジウムを行う。研究成果報告書を刊行する。
年度報告	韓国・木浦大学との国際シンポジウムを行った。研究ブランディング事業の研究成果報告会の開催と研究成果報告書の発行は、新型コロナウィルス禍により次年度に延期した。
達成度	S
改善課題	大学ブランディング研究の地域への発信が課題である。
根拠資料	①韓国・木浦大学との国際シンポジウム講演要旨集 ②研究成果報告会レジュメ・研究成果報告書(予定)
次年度の課題と改善の方策	次年度に研究成果報告会と報告書の発行を行う。